

2022年03月08日

## 学校給食用牛乳、ストローを廃止

～ストロー年間約 2,500 万本、CO<sub>2</sub>換算で約 25 トン削減～

～飲みやすく、開けやすい紙パックに切り替え～

江崎グリコ株式会社（大阪市）は 4 月から、学校給食で提供する牛乳のストローを廃止します。ストローが無くても飲みやすく、開封しやすい紙パックに切り替えます。学校給食用牛乳のストローを廃止することで、2023 年に 2021 年比で年間約 2500 万本、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出量に換算すると約 25 トンの削減につながります。「Glico グループ環境ビジョン 2050」の達成を目指し、持続可能な社会に貢献します。

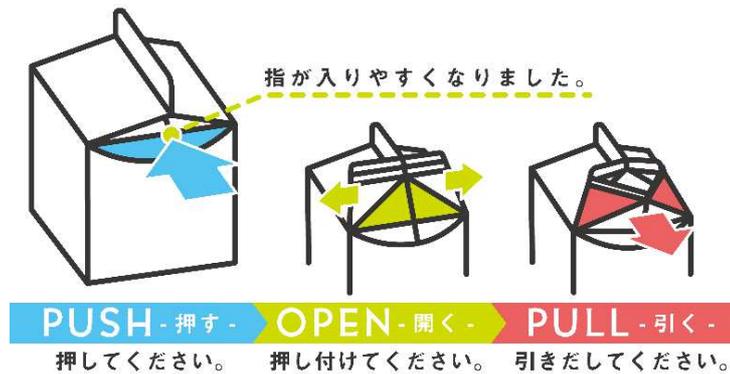


### ■ 全国 4 工場 で 4 月以降、新たな紙パックに変更

江崎グリコの生産子会社、グリコマニュファクチャリングジャパン（大阪市）で、牛乳を生産している全国 4 工場（※）すべてで、新学期を迎える 4 月以降、学校給食用牛乳のストローが不要な、新たな紙パックに切り替えます。各工場から納入する自治体の小学校、中学校、特別支援学校が主な対象となります。  
※那須工場（栃木県那須塩原市）、東京工場（東京都昭島市）、岐阜工場（岐阜県安八町）、佐賀工場（佐賀県佐賀市）

### ■ ストローが無くても飲みやすく、紙パックを開けやすく

学校給食で提供する牛乳は容量が 200 ミリリットルと家庭向けに比べて小さく、従来の紙パックにはストローをつけることが一般的でした。今回採用した新たな紙パックは、より開口部が開けやすく、ストローを使用することなく簡単に飲むことが可能です。また、ストローが必要な児童・生徒にも対応するため、従来通り、ストロー穴を残しています。



#### ■ 環境負荷の少ない容器・包装への切り替え

Glico グループは、2021年3月に「Glico グループ環境ビジョン 2050」を策定し、資源循環社会を目指すため、「持続可能な容器包装資源の活用」を重要な取り組みの一つに掲げています。具体的な取り組みとして、容器包装の減量化による、プラスチック使用量の削減を進めてきました。

社会課題であるプラスチックごみの削減に向けて、全国の各自治体とともに、学校給食用牛乳のストロー廃止に向けて検討してきました。児童・生徒が環境への意識をより高めることにもつながります。

今後も、当社は事業を通じて社会に貢献するため、容器包装の減量化による環境負荷の低減を目指します。